

〔目的〕 加工食品に対する考え方や態度、および健康のために食生活で心がけていることをなどを女性を対象にして調査し、1999年と1996年に実施した調査を比較することにより、意識の変化を分析すること。

〔方法〕 調査は首都圏に在住する18歳から68歳の女性を対象にして行った。調査方法は留め置き法で自記入方式とし、往復郵送調査とした。調査結果についてクロス集計、因子分析、クラスター分析などで解析を行った。有効回答数は1996年が779名、1999年が793名であった。

〔結果〕 健康のために食生活で心掛けていることは(22項目提示)、「朝食を必ずとる」、「野菜を多くとる」、「栄養のバランスを考えた食事をとる」、「1日3食を規則正しくとる」、「栄養のバランスを考えた食事をとる」が上位5項目であり、この順位は3年間で変化がなかったが、ほぼ全ての項目で、心掛けていると回答した人の割合は3年間で減少した。加工食品に対する意識(52項目提示)について、因子分析を行った結果、自然・天然志向を示す軸、簡単・便利志向を示す軸、安全・安心志向を示す軸の3軸を抽出した。この3年間では、全体的に自然・天然志向が弱くなり、簡単・便利志向が強くなる傾向にあった。加工食品に対する意識についてクラスター分析を行った結果、「加工食品積極利用型」、「手作り重視型」、「無添加簡便型」などの6つのクラスターに分類できた。「加工食品積極利用型」が増加し、「手作り重視型」が減少する傾向がこの3年間で顕著に認められた。